

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)		通信会社（営業担当）	・学生向けの販売量の伸びに伴い、家族単位の購入需要が伸びると見込んでいる。
		商店街（代表者）	・衣料関係は苦戦しているが、去年が悪すぎたため若干改善されると期待している。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・街中に人の流れができ、客層が幅広くなってきた。この傾向は続くと考え。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	・年度末に向けて官公庁などの需要が高まり、売上増が見込める。
		百貨店（売場主任）	・米国の次期大統領就任により先行きは不透明であるが、今のまま円安株高傾向が続けば、高額商品需要が堅調に推移すると見込んでいる。
		百貨店（営業担当）	・セール商戦が始まり、今まで買い控えしていた分が売上に繋がると見込んでいる。現状よりは良くなると思。
		乗用車販売店（経営者）	・1～3月の予約の話が出てきているので、年明けから良くなると見込んでいる。
		乗用車販売店（役員）	・来年3月の決算月までは予定どおりに受注をこなし、売上計画を達成できるものと期待している。
		タクシー運転手	・1月以降も、県外からの観光客の仕事が入ってきている。
		通信会社（役員）	・新生活案件として例年どおり、3月の商戦期を迎える。携帯電話の新規契約、更新に伴う問い合わせや契約が増える。
		住宅販売会社（従業員）	・年始のイベントで、来客数や問い合わせの増加に期待できそう。このまま雪が積もらなければ、土地の販売も進むと見込んでいる。土地の供給が増えており、リーズナブルな価格設定の分譲地が多いので販売速度も早い。客に土地建物のセット提案をしっかりと行えば販売量は増えると思。
		住宅販売会社（従業員）	・来期の決算数字に直結する手持ち完工残高は、予想数字より若干下回ったものの達成可能範囲である。目標をクリアするかどうかは、見込み先となる商談件数アップに掛かっている。
		商店街（代表者）	・円安株高の恩恵は、まだ地方には及んでいないようである。その恩恵が早く浸透してこない、景気はどん底のままである。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・良くなる要素はないが、これ以上悪くなることもない。現状と変わらないと思。
		スーパー（総務担当）	・どのスーパーも特売で売価を下げている。今後も競争が激化する。
		スーパー（総務担当）	・駅構内の店舗が昨年並みの売上であること、雇用が厳しい状態が続いていることから、当面は横ばいの状況が続くと思。
		スーパー（店舗管理）	・現状からみて年末商戦の一時的な回復があったとしても、平常が良くなっているわけではない。良くなる要素が見当たらない。
		コンビニ（経営者）	・例年なら最も落ち込みがみられる時期である。しかし、以前からの予想ほどの降雪はなさそうなので、変化は大してないと思。
		コンビニ（店舗管理）	・全国2位の求人倍率となっている。人手不足により、思うように商売が出来にくい環境から抜け出せない。
		衣料品専門店（経営者）	・最近、店舗内で感じることは、来客の間隔が短くなっていることである。時間帯を問わず、ポツン、ポツンの来客が、ダラダラと続くように感じる。先行きとどのように関係するかは分からない。
	衣料品専門店（経営者）	・相変わらず売上は水準以下である。衣料品が不振と言われてもう2～3年経過するが、もうそろそろ底を打つのではないかと期待している。	
	家電量販店（店長）	・新生活シーズンになるが、少子化により年々、販売数が減っている。	
	家電量販店（本部）	・消費を刺激する外的要因が、特に見当たらない。	
	自動車備品販売店（役員）	・消費税増税の再延期となり、駆け込み需要を期待していたため明るい兆しはない。	
	住関連専門店（役員）	・12月に入って、来客数と販売点数の改善が若干はみられるものの、単価が上がらない。ボーナス商戦に期待したが、著しい回復はない。今後は冬季の閑散期を迎え、その後は引越等による繁忙期を迎える。何かと家計出費が重なる3～4月は、なお一層の買い控えとなることを懸念している。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・状況は、本当に変わらないと思。しかし、米国の次期大統領の影響によって、少しでも経済が良くなってほしいという期待が少しだけある。	

	その他小売〔ショッピングセンター〕	・クリスマスケーキやおせちの予約数量はほぼ昨年並みだが、昨年に好調だった高額品需要は鈍い。その結果3%程度、販売単価が低い状態である。
	一般レストラン（店長）	・希望的観測も含めて、景気が緩やかに回復することを期待している。
	観光型旅館（スタッフ）	・12月の予約状況はまだ87%だが、1月以降は79~75%と、まだまだの状態である。苦戦状態は続いているが、直近3か月の予約仕入れのマイナス幅は減少傾向となっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	・北陸新幹線開業の勢いがやや鈍化してきたが、もともと冬の時期は観光客は減少する。インバウンド客の増加を期待している。
	都市型ホテル（役員）	・宿泊部門は、稼働率の若干の低下に対して1室単価の改定で売上確保する傾向が続く。レストラン及び宴会部門は、例年と同様の予約状況である。全館では変わらないと見込んでいる。
	旅行代理店（所長）	・大きな話題性のある観光地が特にないため、状況は変わらない。ただし、海外旅行では原油価格の高騰による燃油サーチャージがあるため、需要減が考えられる。
	通信会社（職員）	・新サービスが低調な状態であるが、年度末に向けてこれまで以上に広告媒体を活用していく。既存サービスは概ね順調である。
	通信会社（店舗統括）	・今のところ、大きな変動要因が見当たらない。
	通信会社（営業担当）	・キャンペーンやイベントなどを実施しているが、大きな変化はみられない。販売量の増減がなく、前年比で横ばいの状況は変わらない。
	通信会社（役員）	・新規契約数の伸びは、提供しているサービスによってばらつきがある。数か月単位でみた場合、ほぼ横ばいではないかとみている。
	テーマパーク（役員）	・先行予約状況を見ると、特に団体客や海外からの予約については、現状で推移するものと見込んでいる。
	その他レジャー施設（総支配人）	・競合施設の入会募集がどのようになるかの状況次第である。
	住宅販売会社（従業員）	・顧客の開拓は依然として厳しいままの状況で、このままの状態が続くものと考えられる。
	住宅販売会社（従業員）	・季節柄、冬期間ということもあって新規来客の動きが鈍くなる。
	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・北陸新幹線開業効果は、2年も経過すると大分落ち着くのではないかと考える。
	乗用車販売店（従業員）	・雪のシーズンとなるため、新車や中古車の購入目当ての来客数は見込めない。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・来客数は堅調に推移しているが、客の買物の仕方が賢くなってきたり単価が伸び悩んでいる。直近のセール企画への反応の大きさを見ると、セール時期に買物を済ませてしまう傾向が見られる。そのため、定価販売の時期となる春先では、衣料品を中心に来客数に影響が出ると危惧している。
	高級レストラン（スタッフ）	・新年会の受注が、例年並みのペースで入っている。ただし、接待や個人グループの受注では85%ほどで推移している。
	一般レストラン（統括）	・外食産業には、円安による仕入価格上昇の不安、人手不足、過重労働問題などで先行きに明るい話題が少ない。また、野菜や魚の仕入価格上昇のため、先月頃から利益減となっている。
	スナック（経営者）	・客の経営者の方々は、財布のひもを締めているようであるが、先々は不透明な様子が見える。
	観光型旅館（経営者）	・秋ごろから国内旅行の需要が鈍化している。旅行会社の販売は減少傾向にある。今年までは北陸新幹線開業効果で順調に売上が伸びていたが、来年からは厳しくなると考える。
	タクシー運転手	・忘年会などで12月が繁忙期のピークと考えている。新年会などもあるが、全体的に減少するとみられる。
	競輪場（職員）	・年末に向けて売上は上昇傾向にある。ただし、現時点では上向きと感じる景気は一時的なものであり、年末年始を過ぎると再び下降線に入ると考える。
	美容室（経営者）	・今年の秋以降、来客数が徐々に落ちてきている。
	x	-
企業 動向 関連 (北陸)		-
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・新設住宅や非住宅分野の堅調な推移を受けて、主力の建材事業に期待が持てる。
	金属製品製造業（経営者）	・2~3か月先の受注の入り具合を見て、やや良くなると判断した。

	一般機械器具製造業 (総務担当)	・円ドル為替水準が現状のまま安定すれば、米国市場への輸出が多い当社にとっては良い条件となる。また、国内では投資減税や補助金政策の効果が期待できる。
	一般機械器具製造業 (経理担当)	・欧米を中心に自動車関係で旺盛な受注が入ってきている。国内完成車メーカーからも3か月先まで着実に受注が入ってきている。材料の調達及び人員の確保が今後の課題となっている。
	精密機械器具製造業 (役員)	・米国の次期大統領への不安や、為替の影響に対する心配はあるものの、今のところ為替や株価は安定している。そのため、顧客企業の在庫調整後の、年明けからの受注増に期待している。
	通信業(営業担当)	・新光回線接続サービスへの移行が始まり、これをキーにした設備投資が進むと考える。
	司法書士	・福井駅周辺部での土地開発事業が本格化している。ほかに北陸新幹線、中部自動車道、福井国体のための施設など、多数の動きがある。
	食料品製造業(経営企画)	・ここ半年くらいのトレンドからみて、良くも悪くも大きな変化が現れるようにはみえない。
	繊維工業(経営者)	・為替の変動により輸出関連で期待はあるものの、依然として受注環境は厳しい。
	繊維工業(経営者)	・国内だけでなく、海外の状況もあり良くない。円安による輸出増に期待したい。
	建設業(経営者)	・3月の年度末の完成工事で忙しくなると見込んでいる。ただし、新規の受注見込みはなく、全体としては変わらないとみられる。
	建設業(役員)	・首都圏以外は引き続き、厳しい受注価格競争が見込まれる。受注環境の先行きの改善は期待できない。
	輸送業(配車担当)	・今のところ急激な上昇とはなっていないものの、軽油価格の状況次第では景気が悪化する。
	金融業(融資担当)	・県内の設備投資の動きは弱い。
	金融業(融資担当)	・大型の設備需要はそれほど大きくないが、全くないわけでもない。変わらないという印象である。
	輸送業(配車担当)	・燃料費の高騰とドライバー不足によって、仕事はあっても受けるのが困難になってきている。
	不動産業(経営者)	・法人関係の話が、かなり少なくなっている状況である。個人からの問い合わせもなかなか出てこない。
	新聞販売店[広告] (従業員)	・12月の折込チラシ出稿量は、前年同月を下回った。特に衣料品や家電、ホームセンターなどの生活必需品量販店からの出稿が減っている。気候に左右される業種ではあるものの、今後の動向が気になる。
	x	-
雇用 関連	-	-
(北陸)	人材派遣会社(社員)	・12月に入ってから来年3月末までの単発、短期の仕事ではあるが、例年より増えている。
	職業安定所(職員)	・当面は新規求人数が増え、新規求職者は減る傾向が見込まれる。
	職業安定所(職員)	・ここ数か月間の毎月の新規求人数は、当地では4,000人前後で推移している。有効求人倍率も連続で80数か月高い状態が続き、今月は1.7倍を超える非常に高い数字で推移している。
	学校[大学](就職担当)	・次年度に向けての求人票が、前年同時期と比べてやや多く出てきている。特に、12月に入って企業からの来訪者が多い。1月の来訪予定も入っており、この傾向は続くと考えられる。
	人材派遣会社(役員)	・有期雇用の募集に対して希望者数が伸びず、人員手配に苦しんでいる。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	・大きな雇用につながる話が出てこない。
	新聞社[求人広告] (担当者)	・円安に流れている現況からか、求人広告の状況は安定している。ただし、大きく景気は変動せず、堅調に推移するのではないかと考える。
	職業安定所(職員)	・業績が良くなるという事業所がある一方で、依然として先行きを不安視している事業所がある。
	民間職業紹介機関(経営者)	・求人倍率は依然として高いが、職種に偏りがあるようである。景気が良くなっている実感はない。
	*	*
	x	-